



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発行者 情報宣伝部
2025年6月5日 No.903

夏季手当0.7ヶ月分追加支給交渉開催

東日本ユニオンに寄せられた 「本音の声」をぶつけるも経営側は追加支給せず

東日本ユニオンは6月5日、申第26号「2025年度夏季手当に追加支給を求める申し入れ」の団体交渉を開催しました。団体交渉では「追加支給の考えはない」とする経営側に対し、私たちに寄せられた「社員の3つの本音」を経営側に訴え、夏季手当に0.7ヶ月分の追加支給を強く求めました。

夏季手当2.8ヶ月は納得できない！

《東日本ユニオンの主張（要旨）》

○寄せられた社員の本音の9割が「2.8ヶ月回答」に納得していない！

○3月6日の回答以降、社員の生活を取り巻く環境は変化している。止まらぬ物価上昇に対する生活への不安など、現状を踏まえて会社の認識を変えるべきだ！

○新幹線列車分離など運行トラブルにおけるお客さま対応、信頼を失う不祥事などに対して信用・信頼を取り戻すために社員は奮闘している。社員の努力に対する正当な成果配分として、夏季手当に0.7ヶ月分の追加支給で応えるべきである！

《経営側》

□2.8ヶ月分では「足りない」「納得できない」という声は受け止めたい。

□3月6日の回答以降の状況の変化は認識しているが、2.8ヶ月分の回答は妥当である。

□社員の尽力には感謝しているが、追加支給する考えはない。引き続き労働条件の向上をはかっていく。

ベースアップと夏季手当の同時回答は納得できない！

《東日本ユニオンの主張（要旨）》

○同時回答は「社員のため」というが、社員の受け止めは違う。社員は回答時期で生活設計は立てない。過去最高月数を求めている！

《経営側》

□同時回答は抑え込みのためではない。社員の財布にいくら入るかがわかり、年収ベースで生活設計を立てられる。あくまでも直近の業績をベースに夏季手当を判断している。

ボーナスにも反映される格差ベアは納得できない！

《東日本ユニオンの主張（要旨）》

○夏季手当にも大きな影響を与える格差ベアに多くの社員は理解、納得していない！職制による職責はいつの時代も変わらない。2025春闘の過去最高の格差ベアは納得できない。

《経営側》

□基本給の要素を占める割合は職責が大きい。職責は変わらないが役割が増していることから合理的な差である。

これからも納得できる賃金・手当を社員の本音で実現しよう！